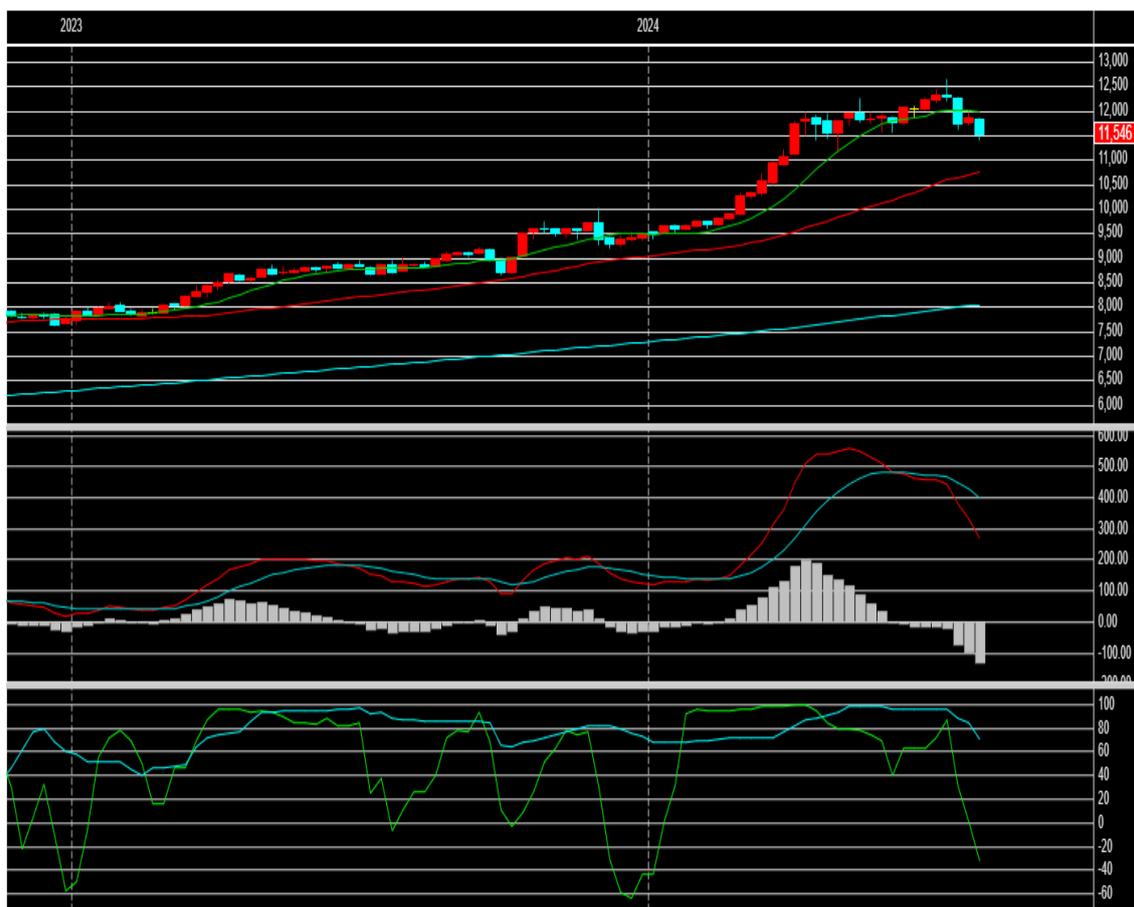


<金標準、米国の景気後退懸念の金利低下で円高の洗礼・・・>



(出所：オアシス)

FOMC でパウエル FRB 議長は、「早ければ次回 9 月の会合で政策金利の引き下げが選択肢となり得る」と発言し、今回の FOMC での利下げを回避したが、ISM 製造業景気指数が 46.8 となり 8 ヶ月ぶりの低水準となるなどパウエル FRB 議長の 9 月まで待つ利下げに対する疑問視が強まると、週末の雇用統計で非農業部門就業者数が 11.4 万人増に低下し、失業率は前月の 4.1%から 4.3%へ急速に悪化している。そのため市場は、短期 2 年債が 4%を下回る 3.886%まで低下し、年内 2 回の利下げを織り込む動きを見せるなど、米国経済に対する景気後退懸念が高まりを見せている。そのため為替市場では 7 月 30 日の 154.74 円に比べ週末の雇用統計で一時 146.41 円まで円高・ドル安が進むなど円建て価格である金標準先物は、円安の恩恵が消え、円高の悪影響から一時 11402 円まで下値を模索するなど、先週の安値 11633 円を下回っている。そのため基調は戻り売りの動きを強めた値動きであり、5 月の安値 11180 円に近づく値動きに注意が必要に思われる。

<テクニカル>

金標準先物の週足の MACD では、MACD が下げながら、シグナルも切り下げている。RCI でも短期が下げながら、長期も切り下げている。特に週足の 10 週移動平均線を下回り、40 週移動平均線が位置する 10762 円に向けた下値追いに備えるのが妥当に思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,530,000 円(2024 年 8 月 5 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 71,280 円(2024 年 8 月 5 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>